

木の花ファミリー通信 Vol.81 Konohana Family News

<http://www.konohana-family.org>

富士山の麓より21世紀の新しい生き方をお届けします

本物のグリーンビルディングとは 中国からの視察団との対話

昨年12月、中国の清華大学と「エコシティとグリーンビルディング（環境に配慮した建築）編集局主催の日本視察団25名が木の花ファミリーを訪れました。訪問の問合せに対し「ここは元々エコビルディングとして創立されたのではなく、建築の専門家が視察されるような最先端のデザインや技術はありませんが、グリーンビルディングのベースとなる精神性や生活を体験して頂く事は可能です」とお伝えしたところ、その理念をツアー最終日にぜひ学びたいとの事で、皆さんをお迎えする事になりました。初日のウェルカムコンサートでは言葉の壁を越えて一つになる感動を味わい、翌日いざどんがプレゼンテーションを行いました。

「今日は、私たちがなぜこういった生き方をしているのかをお伝えしたいと思います。産業革命以降、人類はモノや金の豊かさを追い求めて経済発展を続けてきました。その結果、エネルギー消費は増大し、地球温暖化による世界的な食糧問題や自然災害の増加を招き、一部の強国への反発からイスラム国が生まれました。全ての人が平等であるはずの共産主義の国、中国では汚職が蔓延し、豊かな国と言われる日本ではアルコールやスマホなどへの依存症があふれ、2060年度の日本の債務残高は8千兆円という試算が出ています。私たちはこのまま、経済の発展によって幸福になると信じていて良いのでしょうか。」

しいかもしれません。しかし、ここに実現しているということは、世界に実現できるということですよ。この世界は全て「響き」から生まれていきます。今、地球を覆っているのは、絶えることのない争いや競争による不安や恐怖、怒りの響きです。それらは人間の欲望が元となつていますが、その欲望をコントロールする智慧が、古代の東洋の叡智に秘められています。それは、この宇宙の法則を人間が取り入れ、地上世界に表すことです。それを日本では『道（ミチ）』、中国では『タオ』と言います。

10年ほど前、一人の中国人女性が木の花ファミリーを訪れ、こう言いました。『私は中国の学校で理想の共産主義について学びましたが、現実にそれを見たことがありませんでした。けれども資本主義の国へ来て、今日、理想の共産主義を見つけました。彼女がそう言ったこの暮らしは、共産主義の精神から生まれたわけではありません。それは、宇宙の星々の関係や地球生態系、私たち人間の体の構造と同じ仕組みを、生活に表しただけなのです。一人ひとりがそれぞれの役割を果たしながら助け合い、共有して生きる暮らしは、現代の人々には難

今、日本と中国は尖閣諸島をめぐる領土問題で対立しています。それはこういうことです。『右手と左手、どちらが強いですか。そしてこの痛みは、いったい誰のものでしょうか。今、自分中心に主観で物事を捉える西洋的視点から、自我を超えて全体を捉える東洋的視点へと切り替える時が来ています。私たち一人ひとりの意識が変化した時、調和のもとに個性が響きあう多様な命の世界、生命本来の美しい響きの世界が、地球上に表現されるのです。』

そう言っているごんは、自分の両腕の拳をゴツン、ゴツン、とぶつけ合いました。

「右手と左手、どちらが強いですか。そしてこの痛みは、いったい誰のものでしょうか。今、自分中心に主観で物事を捉える西洋的視点から、自我を超えて全体を捉える東洋的視点へと切り替える時が来ています。私たち一人ひとりの意識が変化した時、調和のもとに個性が響きあう多様な命の世界、生命本来の美しい響きの世界が、地球上に表現されるのです。」



視察団の一人である清華大学「都市計画とデザイン研究所」のタオ所長より「木の花ファミリーとの出会いは、たくさんの温かい思い出と、私たちの旅へ予期せぬ最後をもたらしました。その光は確実に、私たちの心の中の何かを呼び覚ましたのです。」

